

平成30年度（2018年度）

京都市立芸術大学大学院 美術研究科 博士（後期）課程 入学試験問題

[語学試験]

英 語

● 解答は全て解答用紙に書くこと。この問題用紙は試験終了後回収します。

A. 次の文章を読み、各空欄(1)～(6)に入れるのに適切な単語を選択肢から選び、記号(A～D)で答えなさい。[各 5×6=30 点]

この問題は著作権法上の関係により、出典のみを記載しています。

[出典 “TECHNOLOGY QUARTERLY: Civilian drones” in *The Economist*, Jun. 10, 2017. p. 10]

- 選択肢:
- | |
|---|
| (1) { (A) constant (B) familiar (C) interesting (D) reluctant } |
| (2) { (A) rule (B) space (C) ban (D) game } |
| (3) { (A) hearing (B) speech (C) touch (D) vision } |
| (4) { (A) obstacles (B) limits (C) environments (D) ideas } |
| (5) { (A) danger (B) objection (C) sense (D) knowledge } |
| (6) { (A) exaggerate (B) exchange (C) exhale (D) explore } |

B. 次の文章の各下線部(1)～(3)の内容を英語で表現しなさい。[(1), (2) 各 8 点、(3) 9 点 計 25 点]

「画家になっていなかったら、今頃どんな仕事をしていると思いますか。」インタビューでしばしば受ける質問である。(1)現に絵を描くことに没頭する毎日を送っていると、そうでない自分を想像するのは難しい。でもしいて例を挙げるならば、数学者であろうか。(2)高校生の頃、数学者の伝記を読みあさり、「数学の美しさ」という概念にたいへん興味を持った。この話をすると、「『美』に魅かれるという意味では、今のお仕事に通ずる何かを既に感じておられたのでしょうか。」と決まって問われるのだが、自分でもよくわからない。(3)いずれにしても、ひとつに決まる正しい答を見つけて満足するような性分でないことは、自分自身よく承知している。どんな仕事に就いているにせよ、答のない世界をさまよいつける人生を歩んでいることだろう。

C. 次の文章を読み、[問題 1, 2]に答えなさい。[45 点]

この問題は著作権法上の関係により、出典のみを記載しています。

[出典 Montiel, Anya (2017) “After Columbus” in *Art in America*, Oct. 2017. pp. 86-91. ART MEDIA AIA, LLC., New York.]

[問題 1] 各空欄(1, 3, 4, 6, 7)に入れるのに適切な単語を選択肢から選び、記号(A~F)で答えなさい。但し、同じ記号を複数回選んではならない。[各 5×5=25 点]

選択肢:

(A) ecological	(B) erased	(C) favor
(D) reflect	(E) selection	(F) universal

[問題 2] 下線部(2, 5)の内容をそれぞれ日本語で説明しなさい。[各 10×2=20 点]